

国立病院機構熊本医療センター

No.250



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501 (代)
FAX (096) 325-2519
連携室直通 TEL (096) 353-6693
連携室直通 FAX (096) 323-7601

新年度のご挨拶

院長 たかはし 高橋 たけし 毅



新年度を迎え、ご挨拶申し上げます。

登録医の先生方には、日頃より病診連携を通じ大変お世話になっております。不慣れな新執行部でしたが、先生方のご支援と職員の協力のもと、一年を経過することができました。

さて、建築を進めております新棟は、今年度末に完成の予定です。そこには、内科系診療科の外来が移転しますが、外来受診の合間に、喫茶室や図書室をご利用いただけるよう計画しております。

また、外来の上階には、がん総合医療センターを開設し、手術（内視鏡手術含む）、化学療法、放射線治療、緩和ケア、がん相談など、不安を抱えるすべてのがん患者さまに寄り添った、優しいがん治療を提供できる施設へと体制を整えます。

救急医療はもとより、ご紹介いただきました患者さまに、安心して療養いただけますよう、病院を挙げて努力してまいります。

どうぞ本年度も引き続きご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



医法) 順風会
西部脳神経外科内科

院長 池田 順一



私は脳卒中予防を掲げて開業し、17年になります。開業以来、脳卒中疾患はもとより、一般内科関連疾患など多くの患者さんを、国立病院機構熊本医療センターに紹介、受け入れて頂き大変感謝いたします。

すべての診療科の専門性、レベルが高く、患者さんの症状、疾患により各科に安心して紹介できています。ただ医療現場では、症状、検査では何科に紹介するか判断に苦慮することが少なくありません。そう言う時には、国立病院機構熊本医療センターの総合診療科の先生方に助けられています。

また各診療科の先生方の紹介患者の返事は丁寧に解説されていて、私は時々‘教科書’としてフェイルしています。

今後も診断、治療に大変な患者さんを紹介するかと思いますが、よろしくお願ひします。



診療科目	脳神経外科・神経内科・内科・放射線科・リハビリテーション科
診療時間	月～金 9:00～12:30 14:00～18:00 土曜日 9:00～13:00
休診日	日曜・祝日
住所	〒860-0068 熊本市西区上代7丁目29-20
T E L	096-329-6611
関連施設	光の森脳神経外科内科 デイケア西部リハビリテーション

※今月号よりレイアウトを一部変更し、登録病院の紹介をさせて頂くことになりました。

平成29年度第2回(通算第44回) 開放型病院連絡会が行われました

平成29年度第2回(通算44回)国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、去る2月24日(土)午後6時30分より、熊本医療センター2階地域医療研修センターにて開催いたしました。

開会にあたり、高橋院長より現状報告と日頃の病病・病診連携へのご支援に対し感謝を申し上げます。

続いて、開放型病院運営協議会委員長で、熊本市医師会会長の福島敬祐先生からご挨拶を頂き、全体会議に移りました。

全体会議では、大島形成外科部長より「リンパ浮腫外来開設について」、水上小児科部長より「子どもの総合医をめざして」と題しての症例提示が行われました。この後、渡邊地域医療連携室長より「地域医療連携室からのお知らせ」、菊川地域医療連携副室長より「紹介予約センターからのお知らせ」を行い、最後に熊本市歯科医師会会長の宮本格尚先生のご挨拶を理事の有働秀一先生に代読して頂き、全体会議を終了いたしました。

続いて、熊本市医師会理事の田中英一先生に座長の労をおとり頂き、厚生労働省医政局総務課医療安全推



名越 究先生による特別講演の様子

進室長の名越究先生による特別講演「我が国の医療安全施策の動向」が行われました。

ご参加いただいた皆さまにおかれましては、お忙しいところ誠に有り難うございました。この会が、登録医療機関様と当院との連携を一層深め、地域医療を益々発展させる機会となれば幸いです。

(庶務班長 毛利安則)

退任のご挨拶



看護部長

佐伯 悦子

この度、3月31日付けで熊本医療センターを去ることになりました。平成25年から5年間、地域の先生方をはじめ看護職の皆様方には大変お世話になりました。お礼申し上げます。

就任時は、救命救急センター44床の立ち上げの時期で、看護師の定数が一挙に47名の増となり、2年間で190名の看護師を採用いたしました。一時は看護師の平均年齢が29歳を切

り、経験が浅いことで皆様方にご迷惑をお掛けしたこともあったかと思えます。病院のビジョンである「24時間365日断らない医療」を合い言葉に職員一丸となって対応してきましたが、果たして地域の皆様のお役に立てたのか、看護の質は向上したのかと振り返っているところです。

5年間の出来事の中で、平成28年の熊本地震は忘れることができません。今までの看護管理の経験はこの日のためにあったのかと思うぐらいでした。しかし、あの地震を乗り越えた私たちは確かに成長したようにも思います。

熊本に来て感じたことですが「熊本大好き人間が多い」ということです。そんな私も5年間で熊本のことが大好きになっていました。今、この熊本を離れることを思うと寂しい気持ちで一杯です。

最後に、皆様方に感謝の気持ちをお伝えして、退任のご挨拶とさせていただきます。



小児科医長

森永 信吾

平成4年から平成8年及び平成14年から平成30年までの計21年間熊本医療センター小児科に勤めさせていただいた森永です。

一般小児科以外に、白血病や悪性リンパ腫、再生不良性貧血などの小児血液疾患の化学療法や造血細胞移植を専門にしました。熊本県下では年間約10名前後の小児白血病が発

症しますが、この16年間で約100名の白血病など血液患者を担当し、23名の予後不良患者に28回の同種骨髄移植を行いました。移植成績は寛解期だと約80%の救命率でしたが、非寛解期移植は10%以下でした。化学療法のみで救命できた患者が約80名です。これらの成績は他の小児科医師、看護師、コメディカル、血液内科医師など病院全職員の方々のご協力の賜物だと思います。

当院小児科は昭和63年から約30年間 高木、柳辺、森永を中心に小児血液を専門にしてきましたが、柳辺、高木が退職し、私が本年3月で辞めることで国立の小児血液診療の歴史は終わります。小児血液は大変なため成り手が少ないからです。4月からは私が熊本大学小児科で血液外来を週1回手伝い国立の患者を診ます。

長い間お世話になり、ありがとうございました。



眼科部長

筒井 順一郎

眼科医としての15年の経歴の中、約半分に当たる7年を当院で過ごしました。

白内障手術だけ数えても、それまでの倍以上の件数を執刀しており、中でも多くの難症例を手がけたこと、当院ならで

はの多様な救急医療に当たったこと、臨床家としてはさらに成長出来たと実感しております。

また責任医として、若い先生達へ自分の経験、知識、技量を伝えることの面白さを覚え、今後も指導的な立場として臨床を続けることに気持ちを固めたところでした。

一方眼科医局では、角膜移植を含めた角膜疾患の専門医が不足しており、その一役を担えればと名乗りを上げたところ、今回角膜バンクのある熊本赤十字病院への赴任が決まった次第です。

仕事のみならず、趣味の分野でも業種を超えて多くの方々と知り合えた中、去って行くのは寂しさと不安を覚えますが、今後の責任と期待を全うできればと思っています。

ありがとうございました。



神経内科医長

田北 智裕

平成16年4月に赴任し、14年間という医者人生の半分以上をこの熊本医療センターで過ごさせていただきました。

赴任当初は、私を含めた若輩者2名だけの体制でした。正直不安な気持ちでいっぱい、当時は多忙な毎日をただただこなすだけで精一杯でしたが、設備やシステムが徐々に充実していき（病院移転、電子カルテ導入、医療秘書や地域連携

スタッフ導入、など)、スタッフも4名に増え、頸部血管エコーも技師さんの協力が得られるようになり、今では随分と働きやすくなったことを実感しています。

また、神経内科領域で振り返りますと、平成17年から脳梗塞治療においてrtPA静注療法が保険適応となったことで、より迅速な対応がせまれるようになりました。また当院は精神科救急も対応しているということで、他の救急病院と比較しても数多くの脳炎・脳症症例を経験することができました。

救急医療が中心ということで多くの時間を拘束され大変ではありましたが、働きやすくなりやすい環境であったと思います。去るのは大変な残惜しいですが、今後は新たな環境に身を置くことで、自分に足りない知識や経験を改めて吸収していき、自分を成長させていきたいと思っています。

本当に長い間、ありがとうございました。

退任のご挨拶



企画課長
村上 司

日頃より開放型病院登録医の先生方におかれましては、当院の運営にご理解とご協力を賜り、誠に有り難うございます。

私は、平成28年4月1日に着任後、間もなく熊本地震に遭遇し、その後慌ただしい時を過ごしましたが、

平成30年4月1日をもって転勤することになりました。正にあっというまの2年間でした。その間、石垣の崩落防止工事や地震に伴う各所修繕工事、病院増改築工事等で、先生方や患者様大変ご不便、ご迷惑をおかけしたことを紙面をお借りしましてお詫び申し上げます。

工事は来年まで引き続きますが、当院が地域医療に益々貢献するためのものですので、もう暫くご辛抱いただきたいと思います。

今般、私は病院を去ることになりましたが、今後とも末永く熊本医療センターをご贖いいただきますようお願いしまして、お別れのご挨拶とさせていただきます。



臨床検査技師長
永田 栄二

今年度をもちまして熊本医療センター臨床検査技師長を退任となります永田でございます。平成26年4月に嬉野医療センターより赴任しましたので、丸四年勤務させていただきました。大変忙しい病院で臨床検査

科も時間に追われる毎日でしたが、新規機器購入、機器更新、職員増員等をしていただき、また診療部・看護部・事務部のご協力も頂き職場環境も随分変わったと感じています。勿論検査科職員の頑張りにも感謝しています。臨床検査科の使命は、正確なデータを迅速に、は当たり前で病院目標に貢献することは必須です。まだまだ色々と考え、行動しなくてはなりません。今後ともご指導の程何卒お願い申し上げます。四月から福岡東医療センターに配置換えとなります。こちらでの経験をいかして頑張ります。お世話になり有難うございました。



理学療法士長
高野 雅弘

この度、4月1日より国立病院機構大牟田病院で勤務することとなりました。当院に在職した4年間、地域の先生方やスタッフの皆様には早期の患者さまの受け入れなど大変お世話になりました。また、熊本大腿骨頸部骨折シームレスケア研究会などで、ご迷惑お

けしたこともあるかと思えます。この場をおかりしてお詫びならびにお礼を申し上げます。私自身、全国モデルとなる熊本型地域医療にかかわることができ、地域の中での急性期病院の役割や地域連携の大切さなど多くのことを学ばせていただきました。熊本での経験と学びを新任地でも役立てたいと思っております。当院は新外来棟完成後、心臓リハビリテーションの施設基準の取得を目指しております。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、地域医療機関の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念致しますと共に日頃のご協力に感謝申し上げます。お世話になりました。



副看護部長
井上 光子

当院には、平成26年4月1日に副看護部長として赴任し、4年間勤務させていただきました。この4年間は、「24時間365日断らない医療」を実践していく中で、地域医療連携の重要性、地域完結型の医療提供体制を

学ばせていただきました。特に熊本地震においては、地域の皆様との強い連携、地域との一体感を感じ、日頃からの協力体制がいかに重要であるかを痛感致しました。この経験は、私自身にとって大きな財産になったと思います。

4月からは国立病院機構熊本再春荘病院での勤務となります。ここでの経験と学びを活かし、自己に課せられた役割を果たせるよう努力して参りたいと思います。今後もお世話になることが多いかと思えます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念し、転任のご挨拶とさせていただきます。

平成29年度第2回 「アドバイサリー・コミティ」が開催されました

去る3月19日（月）、本年度第2回目のアドバイサリー・コミティを開催いたしました。アドバイサリー・コミティは、地域の急性期中核病院としての当院の診療機能の充実と当院の理念である「最新の知識・医療技術と礼節をもって、良質で安全な医療」の推進を図ることを目的に、外部委員の医師の皆さまから忌憚のないご意見を頂戴する会議です。

今回、4名の外部委員の先生方にご出席をいただき、ご意見を伺いました。病院側は、高橋院長をはじめ幹部職員、各診療科の部長又は医長、その他事務局の総勢25名が参加しました。話題提供といたしまして、岡本心臓血管外科部長の「閉塞性動脈硬化症の治療」と牧野皮膚科医長の「うっ滞性皮膚炎」についてお話を

頂きました。

その後、意見交換が行われ、外部委員の皆さまから、「病院のコスト意識」、「ジェネリック医薬品の使用」、「電話回線の増設（繋がりにくい）」、「ホームページ上での病院情報公開」、「紹介患者の救急受診時の検査結果等の報告」、「駐車場警備員の接遇」、「患者図書室等の設備の充実」等についてご意見を頂きました。

その他頂戴した貴重なご意見につきましても、参考にさせていただき、診療機能のさらなる充実を図りながら、病院運営に活かしてまいりたいと思います。

外部委員の先生方におかれましては、診療のお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございました。

（管理課長 福田信也）

二の丸薬薬連携講演会が開催されました

平成30年2月13日、地域医療研修センターホールにおいて二の丸薬薬連携講演会が開催されました。この会は、院外処方箋応需薬局の薬剤師と、当院薬剤師とが中心となり、病薬薬の連携を深める目的として意見交換・諸問題を共有する場として年2～3回開催され、この度で10回目を迎えました。参加者も回を重ねるごとに増えて、薬局薬剤師と病院薬剤師—当院以外の施

設からも参加され約50名が参加し意見交換しました。

講演は、第一部として当院の医療情報連携システム「りんどうネット」について、私山形が概説しました。病院・診療所でのりんどうネットの利用は増えている一方で、薬局での利用は数件に留まっており、今後の普及が期待されるようです。

第二部として、当院皮膚科の牧野公治医長より、「皮膚細菌感染症の内服プラスアルファ」のタイトルで、皮膚科領域の感染症と内服抗菌薬や軟膏・クリーム剤の処方意図と使用方法について説明されました。講演時間40分に対して、質疑応答は活発で30分間途切れず、保険薬局における関心の高さ、調剤・服薬指導などでの必要性の高さが伺えました。

今後外来診療の重みが増すことが見越される中、この会が緊密な病薬連携のきっかけの場として役割を果たしてゆくことが期待されています。

（副薬剤部長 山形真一）

薬薬連携講演会会場の様子



臨床研修医修了式が行われました

平成30年3月16日に、総合臨床研修およびプライマリケアプログラムの医科19名（平成28年度開始）および歯科口腔外科プログラムの1名（平成29年度開始）の計20名の臨床研修修了式が執り行われ、高橋毅病院長より修了証が授与されました。修了証を手にする姿は自信に溢れ、たくましく成長した姿は頼もしい限りでした。今回の医科研修医達はまさに『地震に始まり、自信に終わった』学年です。ご指導を頂いた地域の先生方および当院の指導医、コメディカルや事務の皆さんには大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

同日夜には修了祝賀会が、病院長をはじめ指導医の先生方のご参加のもとにKKRホテルにて賑やかに開催されました。別れは大変寂しくもありますが、彼ら



修了証を手に記念撮影

の新たな出発を祈念して楽しく送り出しました。今後それぞれの道で今回の研修を生かして大いに活躍していただきたいと思います。（教育研修部長 富田正郎）

第2回「看看連携の集い」が行われました

第2回看看連携の集い（With 地域包括ケア病棟）を平成30年2月26日に研修センターホールにて開催致しました。熊本県内の地域包括ケア病棟を有する施設の看護師の皆様29名、当院の看護師43名、合計72名の参加となりました。

今回は「急性期病院から地域包括ケア病棟へ」連携に必要なことをテーマに開催しました。青磁野リハビリテーション病院の笹原あゆみ副看護部長様より、地域包括ケア病棟の役割や在宅療養へつなげる取り組みについてご講義いただき、また、当院からは退院支援の取り組みを紹介し、お互いが理解を深める機会となりました。

活
発
な
デ
ィ
ス
カ
ッ
シ
ョ
ン
が
出
来
ま
し
た。



青
磁
野
リ
ハ
ビ
リ
テ
ー
シ
ョ
ン
病
院
の
笹
原
あ
ゆ
み
副
看
護
部
長
さ
ん
か
ら
の
講
義

意見交換会では、地域包括ケア病棟看護師の皆様からは、「患者・家族は退院後どこで生活をしたと思っているのかを把握し、情報をつなげてほしい」、「どの部分にどの程度介助が必要なのか、生活がわかるような看護サマリーにしてほしい」、「認知症、せん妄のある患者さまも安全に受け入れたい。急性期病院での具体的な対応方法を伝えてほしい」などの声が聞かれました。どの施設からも、患者・家族の思いに寄り添い、看護を継続したいという思いを強く感じました。今後は、頂いたご意見をもとに、シームレスな連携につながるよう取り組んでいきたいと思ひます。

（看護師長 城 芳恵）

看護研究発表会が行われました

2月23日、26日の2日間に渡り、平成29年度院内看護研究発表会を行いました。各部署から、11演題の発表があり、聴講者も90名前後で活発な意見交換の機会となりました。主研究者、共同研究者の皆さんにとっては短い期間の中で、論文としてまとめ、発表するまで大変だったと思ひますが、どのテーマも臨床実践の中から見出された課題に対するテーマで、興味深いものでした。7南病棟では「精神看護学実習における患者－学生関係の理解～ロールプレイング法を用いて～」で実習生のプロセスレコードを基に場面を再構築し、

ロールプレイングを行うことで、実習生の学びがどのように深まっているかの質的研究をされていました。前年度の継続研究もあり、6東病棟の「看護対応手順を用いた手術中待機している家族に対する看護介入の有効性の検討～家族への看護介入に対する認識と意思の調査～」では、手術待機している家族へアンケート調査を実施し、自分達のケアの有効性を明らかにされていました。今後の課題はありますが、院外発表できるよう教育研修係長としてサポートしていきたいと思ひます。

（教育研修係長 榎原チハル）

平成29年度 院内看護研究発表会プログラム

病棟名	発表者	テーマ
救命	野々原みづ子	A病院救命救急センターにおけるCPOT導入への取り組み ～第一報～
ICU	一浦 成美	人工呼吸器管理を受けた患者が体験した苦痛の実態調査
7東	吉村弥那子	処置が必要な皮膚科患者の看護サマリーを振り返って見えてきたもの
7南	御家菰奈美	精神看護学実習における患者－学生関係の理解 ～ロールプレイング法を用いて～
CCU	高見 英理	亜症候性せん妄となったCCU入室患者のせん妄陽性化への増悪予測
5西	守永富士美	尿路変更術後の退院後のストーマ管理の現状と問題
5南	江口 恵	頸髄損傷患者の呼吸ケアについて ～プロトコルを用いて統一した看護を目指す～
6東	仮屋 有加	看護対応手順を用いた手術中待機している家族に対する看護介入の有効性の検討 ～家族への看護介入に対する認識と意思の調査～
7北	出雲 優	脳卒中患者の機能性尿失禁への関わり ～排尿障害患者対応シートを使用して～
7西	井上 彩	認知症患者の睡眠障害に対するタッチングの有効性の検証
手術室	米村絵里香	右下頭低位となる手術体位での疼痛軽減への取り組み ～皮膚保護クリームを用いた用手除圧～



QC活動研究発表会が行われました

平成29年度のQC活動発表会は平成30年2月19日に医療サービス、医療安全、業務改善などのさまざまなテーマにつきまして16演題が発表されました。日常業務の中で、何とか出来ないかなと思っていた事項を意識的に取り上げ各チームで要因を検討し解決策を策定、実践して頂きました。この発表を通じて医療は多種多様な業務の集合体で有り、改善できることは山ほど転がっているということを感じました。何より、仕事の中で感じた違和感、未達成感を大切にして、それが解決できる問題であると気づく感性が一番大切であると思います。こころのメモに書き留めて、QC活動の場で提案してみると、同僚が同じ思いを感じていること



QC活動研究発表会の様子

が分かります。今後も継続し患者さんのための業務改善につなげて行きたいと思います。

(副院長 清川哲志)

消防訓練が実施されました

平成30年3月7日 火災発生時、迅速な対応ができるよう併せて職員の防火意識の向上を図ることを目的として、消防訓練が行われました。



初期消火の様子

春の火災予防週間の一環で、深夜帯「5階西病棟処置室から出火」との想定で職員や看護学生ら80名が参加し通報、初期消火、避難誘導訓練が行われました。西側駐車場に避難後、大塚副院長より訓練講評、その後屋内散水栓の取り扱い訓練が行われ消防訓練を終了しました。

病院で火災が発生した場合、発生場所毎に臨機応変な対応が求められます。常日頃より火災が発生した場合どのように行動するかを考え患者様に安心・安全を提供するために病院としての使命・役割を職員一人一人が十分に認識し自衛消防体制を今後とも充実させていくことが重要だと思います。

(救急医療支援業務担当 後藤達広)

熊本城マラソンに参加しました

こんにちは。熊本医療センター歯科口腔外科の谷口広祐と申します。2月18日に開催されました熊本城マラソン2018に参加してきましたのでご報告いたします。今年も昨年同様、晴天に恵まれ2月とは思えない程の暑さとなりましたが、約13000名のランナー達が思い思いの恰好で走り、およそ9割が完走したようです。沿道では多くの方々が応援に来てくださり大会を盛り上げていただきました。私を含め多くのランナー達が沿道の応援に元気もらったのではないかと思います。道中では私の患者さんが応援に来てくださり、一緒に記念写真を撮らせていただきました。

フルマラソンを走ったのは2回目ですが、日頃の練習不足もあり今回も制限時間ぎりぎりまで完走しました。翌日は予想通り足が全く動きませんでした。手術の予定を入れてなかったことだけは英断であったとしみ



楽しく完走できました。



手作りの垂れ幕で応援してくださいました。

じみ感じました。

最後に、今回も楽しく走ることができましたのは、熊本城マラソンに関わったすべての方々のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。

(歯科口腔外科 谷口広祐)

第18回「熊本PEECコース」を開催しました

去る3月3日、第18回熊本PEEC（ピーク）コースを開催いたしました。翌4日は第3回熊本PPST（ピースト）コースの開催もあり、濃密な週末となりました。平成25年7月から全国展開されているPEECコースですが、救急医療部門で働く方を対象に、精神科患者の初期評価・初期対応を学ぶ教育研修コースとなります。当院看護部（救命救急センター・精神科）、臨床心理士の他、熊本市消防局の面々と共に、院外から神野哲平MD、松尾智彦MDがスタッフとして力を尽くしてくださいました。平成30年度は5月6日を皮切りに計5回のPEECコースを予定し、7月14日は記念すべき



参加者で記念撮影

第20回コースになりますので特別イベントも企画しています。奮ってのご参加お願いいたします。

（精神科医長 橋本 聡）

排尿ケアチームによる活動を開始します!!

前回の診療報酬改定時に「排尿自立指導料」が新しく保険収載されました。この指導料の目的は、入院患者様の尿道留置カテーテルを1日でも早く抜去し、尿路感染を防止するとともに排尿自立の方向に導くことです。排尿自立を指導することにより尿路感染を減少させ、ADLの維持・増進をもたらし、ひいては早期退院・寝たきり患者減少につながることを期待されています。



排尿ケアチームメンバー

今回、当院においても泌尿器科医師、認定看護師、理学療法士から成る排尿ケアチームが結成されました。入院患者様に対して、病棟の看護師と排尿ケアチームが、下部尿路機能の回復のための「包括的排尿ケア」を行った場合に、排尿自立指導料が算定されます。下に該当する患者様が指導の対象となります。

- ① 尿道カテーテル抜去後に、尿失禁、尿閉等の下部尿路機能障害の症状を有するもの
- ② 尿道カテーテル留置中の患者であって、尿道カテーテル抜去後に下部尿路機能障害を生ずると見込まれるもの

平成30年4月から5西病棟（泌尿器科疾患）と7北病棟（脳神経疾患）を対象に排尿ケアチームの活動を開始しています。将来的には全病棟を対象にラウンドを行う予定です。入院患者様の排尿障害で困っている担当医・看護師は各病棟のリンクナースに相談ください。排尿ケアチームが馳せ参じます。

（泌尿器科 二口芳樹）

国立病院シャトルバス ダイヤ改正

患者様やご家族が、より便利にご利用しやすくなるように国立病院シャトルバスの病院発を増発します。ぜひご活用下さい!!



運賃：大人150円・小人80円

国立病院発 → 通町筋、水道町方面行き（交通センター経由） 運行時刻表		平土日祝運行 ※年末年始は運休いたします								
F	国立病院構内発	9:10	10:10	11:00	12:00	13:30	14:30	15:30	16:30	18:00
E	国立病院前	9:11	10:11	11:01	12:01	13:31	14:31	15:31	16:31	18:01
D	交通センター⑱番のりば	9:16	10:16	11:06	12:06	13:36	14:36	15:36	16:36	18:06
C	市役所前	9:18	10:18	11:08	12:08	13:38	14:38	15:38	16:38	18:08
B	通町筋	9:21	10:21	11:11	12:11	13:41	14:41	15:41	16:41	18:11
A	水道町(電車通り沿い)着	9:25	10:25	11:15	12:15	13:45	14:45	15:45	16:45	18:15

平成29年度看護学校卒業式

平成30年3月2日（金曜日）に卒業式を挙行了いたしました。

学生たちにとって院内・院外講師の方々、病院の職員、地域の方々に支えて頂き、多くのことを経験した3年間だったと思います。学生は、卒業式で患者様やそのご家族のこれからの生活を見据えた看護を行うことを誓いました。教職員一同心より感謝いたします。
(看護学校教員 川久保佳奈)

3年間の学習を通して、看護師とは患者様の一番の理解者であり、一人ひとりが自分らしく過ごして行けるように支援する必要があることを学ぶことができました。これからも、患者様の声に耳を傾けて根拠に基づいた看護を行っていききたいと思います。

(69期生 宮崎成加)

これまでの実習や患者様との関りを通して、人と人とのつながりが看護を行う上で重要だと学びました。地域とのつながりも大切に、その人らしさをくみ取ることができる看護師として患者様一人ひとりの生活を支援していききたいと思います。

(69期生 中矢桂子)



高橋学校長より卒業証書が授与されました



病院内での実習だけでなく、自宅で療養されている患者様の生活場面に触れることで、病棟での看護について考えることができました。地域での看護が求められる時代に向け、これまでの学びをまずは病院の看護師として活かしていきたいと思っています。

(69期生 江口舞)

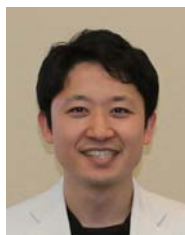
新任職員紹介



救命救急科
たて なおあき
楯 直晃

平成30年1月より救命救急部で勤務させていただいております楯直晃と申します。平成25年に熊本大学を卒業し、初期臨床研修の後、3年間の熊本大学地域医療総合診療専門修練プログラムに属し、診療を行って

おります。小児から高齢者、在宅医療から集中治療、医療のみならず介護保健福祉まで、病を抱える人間に関わるであろうほとんどの領域を身をもって知ることが、医師としての基礎を築く上で必要であると考え、同プログラムに応募しました。熊本医療センターのスタッフの方々と協力して、患者様のみならず、家族、地域、スタッフ自身も幸せになれるような医療を提供できるように頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



皮膚科
みず はし さとる
水橋 覚

平成30年3月より皮膚科で勤務させて頂いております、水橋 覚と申します。熊本大学病院皮膚科で約一年間勤務の後、本院皮膚科勤務となりました。医師年数も短く、ご迷惑をおかけする事が多々あるかと思いますが、努力を重ねて参りますのでご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

最近のトピックス

膿瘍形成性虫垂炎に対する保存的治療後のInterval appendectomy

外科医長

久保田 竜生



急性虫垂炎は比較的多くみられる緊急手術対象の疾患です。当科においては低侵襲な腹腔鏡下虫垂切除術を第一選択として、合併症の減少、在院日数の短縮をはかっています。

急性虫垂炎は炎症が軽度のものから非常に高度なものまでその病状は多彩であり、回盲部切除といって結腸の一部まで切離する手術に至るケースも存在します。周囲に炎症が波及し腫瘍を形成していたり、膿瘍を伴う高度な虫垂炎に対する治療として、急性期手術を行わずに保存的治療を行い待機的に虫垂切除術を行うinterval appendectomy（以下IA）が普及するようになってきました。IAは小児外科の分野では一般的でしたが成人の虫垂炎に対しても有効であるとの報告がおよそ10年ほど前より多くみられるようになりました。抗菌薬を用いた保存的治療を行い、炎症が鎮静化したのちに手術を行うため炎症による癒着が局限し、解剖がわかりやすく虫垂根部（切除する部分）断端の確保に安心感が生じるなど多くのメリットが報告されています。しかし前述したように急性虫垂炎は穿孔などにより腹膜炎などの重大な病態へ発展することもあり、その適応の選択は慎重、的確に行われなければなりません。当科では①画像検査で膿瘍形成性虫垂炎を呈している。②腹部症状が局限している。③保存的治療開始後48時間以内に症状の改善を認める。以上の基準でIAを行っています。当科独自の検討を行いIAの適応とされた93%の症例で待機的手術ができました。多くの症例で拡大手術が回避されたこととなります。症例を検討することで他にわかったことがあります。それは手術後の病理検査で、神経内分泌腫瘍、粘液嚢胞腺腫、虫垂癌などが見つかったことです。よって待機

期間中に内視鏡検査などを行っておくことが大切です。

急性虫垂炎は当院のように救急患者を多く受け入れている施設では非常に多くご紹介いただいています。自施設の検討によりIAが安全に行うことができることがわかりました。患者中心の医療を、今後も自信をもって継続していくために最新の情報を持って、最良の技術の研鑽を日々行ってまいりたいと考えています。



初診時 虫垂は腫れ膿瘍が見られます。



3か月後 炎症が消退し鮮明です。



IAにおける虫垂です。腫れは軽度です。

病院食の改革

～熊本ホテルキャッスル脇宮料理長による調理指導～

一流の調理指導を受けよう」と高橋院長のご発案から、平成30年2月28日熊本キャッスルホテル脇宮料理長にご来院いただき、病院食の調理指導を受けました。

患者さまから寄せられる声の中から、①魚が生臭い ②汁物が水っぽい（薄い）③和え物が水っぽい（味がしない）④煮物が煮くずれている⑤焼魚がパサパサしている。以上緊急に改善を要する問題を抱えた献立を選び当日のぞみました。

朝からスタッフ一同緊張して脇宮料理長をお迎えしましたが、終始穏やかに①魚の臭みの取り方②だしを取り方③食感を残しつつ、しっかり味のついた野菜の和え方④味がしみていのにほっこの煮物の煮方⑤ふっくら、しっとりした焼魚の焼き方等の改善策についてご教授くださり、和食の下処理法、調味、盛り付けの際のひと手間のかけ方、機能を最大限に生かした調理機器の使い方等お手本とご用意いただいた手書きの資料でご指導くださいました。

若いスタッフも脇宮料理長のお人柄に誘われるままにたくさんの質問をさせていただき感動しておりました。



調理指導の様子

今回ご指導いただいた方法は、患者さまからの「おいしい。」の声が増えていくようにスタッフ全員で復し自分たちのものにしていきたいと思います。

最後に、今回の企画を快く引き受けてくださった熊本ホテルキャッスルの横山総支配人をはじめとするスタッフの皆様、前もっての試作、わかりやすい資料まで作成しご指導くださった脇宮料理長、このような機会を発案し交渉くださった高橋院長に心よりお礼申し上げます。
(栄養管理室長 四元有吏)

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話 **096-353-6693**

月～金（祝日を除く）AM 8:30～PM 17:00



研修のご案内

第230回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年4月16日(月)19:00～20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。
 - 「第1症例 集学的治療により完全社会復帰した院外心停止の急性心筋梗塞の一例」
国立病院機構熊本医療センター循環器内科 松原純一
 - 「第2症例 関節リウマチに合併した白血球減少症」
国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高道弘
- ミニレクチャー「敗血症と敗血症性ショック」
国立病院機構熊本医療センター救命救急科医長 櫻井聖大

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。
〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

2018年 研修日程表 4月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

4月	研修センターホール	研修室
1日(日)		
2日(月)		
3日(火)		
4日(水)		
5日(木)		
6日(金)		
7日(土)		
8日(日)		
9日(月)		
10日(火)		
11日(水)		
12日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	
13日(金)		
14日(土)		
15日(日)		
16日(月)		19:00~20:30 第230回 月曜会 (内科症例検討会) (研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
17日(火)	19:30~21:00 第54回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 座長 西日本病院言語聴覚士 岩坂 省吾 先生 「咀嚼嚥下における解剖・生理・運動学 ー基礎から応用までー」 熊本保健科学大学理学療法専攻准教授 久保 高明 先生	
18日(水)		
19日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 14:00~15:30 第61回 市民公開講座 「骨粗鬆症と転倒・骨折」 国立病院機構熊本医療センター整形外科医長 前田 智	
20日(金)		
21日(土)	15:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会	
22日(日)		
23日(月)		
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会 (研1)
25日(水)		
26日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 <細胞診月例会・症例検討会>	
27日(金)		
28日(土)	13:00~15:30 第148回 公開看護セミナー 「せん妄のことがよく分かる! ~発症予防から看護ケアまで~」 国立病院機構熊本医療センター精神看護専門看護師 川村修司	
29日(日)		
30日(月)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)